



# 仏法領

ぶつぽうりょう

第94号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒 824-0202

福岡県京都郡みやこ  
町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ  
[nenshinji.org](http://nenshinji.org)

## 前坊守追悼号



### 後に生まれた者は

前の人を訪え（たずねよ）



前坊守が亡くなり、もうすぐ百箇日。今年11月14日は前住職の13回忌にも当たります。そこで今回は「供養」をテーマにしました。

少し堅いのですが、しばらく供養の元々の意味を尋ねてみます。詳しくは『これから供養のかたち』(祥伝社、井出悦郎)を『参考ください』。

私は次男だ。  
幼い頃に、兄を亡くしている。

物心ついたときから、

叔母に「兄にそつくりだ」と  
言われながら、育ってきた。  
母は、一言も語らないまま  
話すことができなくなつた。

親となつた今、母はどのようにして  
子どもを亡くした悲しさから  
生きることができたのだろうか。

私の想像するに、

お寺に通い、手を合わせることで  
どれだけ救われただろうか。

住職、坊守に話を聞いていただき  
どれだけ救われただろうか。

親、兄弟姉妹、地域の人々に  
どれだけ救われただろうか。

手を合わせ、お経を唱え

亡くなつた子どもの分まで  
精一杯生き抜く。

それが、「くよう」になると信じて  
今も、生き抜いているのだと

私は思う。

(写真・文 大迫光浩)

供養には、追善供養、施餓鬼供養、開眼供養、讚嘆供養などの嘗みがあり、追善供養が一般的に親しまれています。本来の追善供養は親や先祖などにお供え(供物)することです。現在の私が生きていることの深さに目覚め感謝することです。根底には日本的な祈りがあると言われます。つまり、善いことをお供えすることで善く生きることを誓うわけです。

一方、浄土真宗では、仏の徳をほめたたえる讚嘆供養が強調され、死者のあの世での幸福を願う追善供養は奨励されません。何故でしょうか。

迷いの身のまま仏の救いの中におさめ取られた念佛者は、仏の徳をほめたたえ念佛申すばかりです。亡き人も今さら追善の必要はなく、仏のはたらきの中にいます。一方で、追善供養という善行には、どうしても見返りを求める自分中心の打算が潜んでしまいます。なので、私が亡き人を成仏させることはできないと教えられています。

門徒さんの仏事へのかかわりは追善供養に近いと思うし、それも人情からすれば至極当然だと思います。亡き人に何かをしてあげたい心情からの行いは、理屈抜きに豊かな世界を感じることができるでしょう。しかしそこからさらに一步進んで、親族を越えて私を成り立たせているご縁の広さ、深さに目を転じてゆきたいのです。仏の眼差しの中には利己的な自分を見つめ続けたのが親鸞聖人の教えです。おおらかにじっくりと歩みたいもので

## 葬儀委員長謝辞



本日は、ご多忙にもかかわらず、念信寺前坊守の葬儀に多くの皆様方のお参りを頂きまして誠に有難うございます。心より感謝を申上げます。

前坊守は春の彼岸法要時には、お元気なお姿

でしたが皆作法要時にお姿はなく、気になつていきました。

8月21日早朝突然の訃報に接し、ただただびっくりしました。通夜、密葬とつとめさせて頂きましたが、未だに信じられません。本葬儀につきましては、コロナ、熱中症、農繁期等を考え、本日の10月5日に決めさせて頂きました。

前坊守はご自分の体調も気になつて

いたと思いますが、私や妻の体調を明るい笑顔で気づかって頂きました。また前坊守は戦後の激動期を前住職と共に乗り越えられ、門信徒の皆さんには明るい笑顔で念信寺の維持管理に努められました。本当に有難うございました。

今後については、門信徒の皆さんのが何よりの餞かと思います。

知恵と工夫で協力をし念信寺の維持管理に努めていくことが前坊守に対しても遺影の前で思い出は尽しませんが、終りに本日の受付、駐車場整理等、お手伝いを頂いた皆さん本当に有難うございました。また遺族に対しましても、今後とも変わらぬご厚誼をお願い致しまして私の挨拶をおわります。本日は

有難うございました。

令和5年10月5日

責任役員 黒瀬 信敏

※本葬儀のご挨拶を記載いたしました。

## 紳ちゃんの独り言

おがたひろてる  
尾形紳光（添田町）



私の供養とはという難しいお題を頂きました。供養の意味をインターネットで調べてみると、あの世へ行った故人の幸せを願い、祈りを捧げることや仏様にお供え物をする事である。

故人の幸せを願うとは、どうゆうことだろうか。仏様となつた故人が極楽浄土でみなと仲良くすごすことだろうか等いろいろ考えたがよくわからない。

今、自分が先祖とつながりを持てるのはいつだろうかと考えたとき、毎日御内仏の前に座り正信偈を上げることで気持ちの落ちつきをもてたり、時には家族の現状報告をする事で先祖に教えを請うてみたり、又安心してもらう様なことを言うことがつながりになるのかなと思ってみたりする。

毎日のお勤めを続けることで恒に先祖を身近に思い、それを生きがいと感じるときそれが先祖の供養になる気がする。

「田生楠堂作 眠光より」

浮世の波にたゞよいて行方さだめ身ながら  
弘誓の舟にまかせつつ 今日をうれしく渡る  
なり  
香の煙のひとすじに 君が尽しゝ まごころは  
弥陀も納受したもうらん 蓮のうてなにねむ  
りませ

## 供養とは・・・

Y A (北九州市小倉北区)

来年、父の五十回忌の法要を営む事にしている。父の死以降、妹、母と亡くし、この間数年毎に三人の年忌法要が営まれた。

父の死を機に法要等仏事に直接関与する事になった。

毎朝の仏壇のお花の水換えとお参り、お寺様の月参りでの読経、年忌法要、お彼岸・お盆・年末のお墓参り等、その中でもお寺様と直接関係する父母、兄妹の年忌法要是私にとって責任のある事であり、亡き人への供養であると思っていた。父の存命の時は受け身の立場であったが、近い肉親の死で仏事が私の主たる行事になつたと思う。

以前勉強会で、仏様へはお願いするのではなく、感謝する事と教えられたと思つてゐる。しかし、毎朝仏壇に手を合わせる時、感謝をし、お願いもしている。亡き身近な肉親であれば、感謝とお願いも許してもらえると思う。仏法での供養の意味は違うのかもしれないが、日々、ご仏壇、ご先祖と接している事が供養ではないだろうかとも思う。

● 第2回検討委員会【8月27日】  
(日) 委員初顔合わせ、予算規模を考慮する必要から業者に見積りを作成してもらうことになった。

● 第1回検討委員会【7月16日】  
(日) 上高屋【M Y 、 T T 】 敬称略  
木井谷【 O H 、 O T 】  
犀川谷【 M Y 、 M M 】  
・ 貴役・総代の計11名

● 第3回検討委員会【9月10日(日)】

花元建設より建設の概要、見通しについて説明を聞く。

● 第4回検討委員会【10月15日(日)】  
宮崎建設より説明を聞く。

● 第5回検討委員会【11月3日(金)】  
祭日】  
中津・善了寺前住職より  
本堂・会館建て替え(1998年)の経験から経緯手順を聞かせてもらい、今後の方針を話し合う。現状説明会をして周知徹底する必要があり、世話人会議で相談することに。

## 本堂大屋根修復 会議状況

● 昨年末より世話人さんを通じて、あるいは寺報で本堂屋根の現状報告。

● 春彼岸世話人会(3月25、26日)でブロックごとの委員を選出することに。その為、各ブロックで会合を持つた。

● 皆作世話人会議【6月18日(日)】  
3ブロック2名ずつ検討委員を選出。

木井谷【O H 、 O T 】  
犀川谷【M Y 、 M M 】  
上高屋【M T 、 T T 】 敬称略

● 第1回検討委員会【6月18日(日)】  
● 第2回検討委員会【7月16日】  
(日) 委員初顔合わせ、予算規模を考慮する必要から業者に見積りを作成してもらうことになった。

● 第3回検討委員会【9月10日(日)】  
花元建設より建設の概要、見通しについて説明を聞く。

● 第4回検討委員会【10月15日(日)】  
宮崎建設より説明を聞く。

● 第5回検討委員会【11月3日(金)】  
祭日】  
中津・善了寺前住職より  
本堂・会館建て替え(1998年)の経験から経緯手順を聞かせてもらい、今後の方針を話し合う。現状説明会をして周知徹底する必要があり、世話人会議で相談することに。



湧水院釋尼衆 悅美 村上悦美  
本葬儀住職挨拶 10月5日

喪主として一言ご挨拶を申上げます。本日は皆様ご多忙中にもかかわらず、ご会葬下さりまして誠に有難く感謝申上げます。

また法友、門信徒、友人と公私とも一方ならぬご厚誼を賜り、深く感謝致しております。

母は2年前肝臓癌が見つかり、高齢でもあります。そのまま自宅で様子を見守っていましたが、今年6月には予想を超えて急激に癌が大きくなり、7月末には胃を圧迫したために食事や水分摂取も難しくなりました。

本人は病気に関しては、周りの医師や看護師、介護の方に委ねておりました。ただ全身が痒いと申して痒みには悩まされました。が、麻薬のお陰でさほど痛みもなく息をひきとりました。この間、友人や門信徒の方々と変わりなく、接することが出来ました。

年齢は決して短いとは申せませんが、あと数年は生きて穏やかな日々を過ごすことができるだろうと予想していました。その時を恵まれなかつたのがいさか心残りではあります、坊守人生を生ききることが出来ました。

行年（かずえ）91歳という年齢は決して短いとは申せませんが、あと数年は生きて穏やかな日々を過ごすことができるだろうと予想していました。その時を恵まれなかつたのがいさか心残りではあります、坊守人生を生ききることが出来ました。

本人に代わりまして感謝申しあげ、今後とも故人同様にご厚情賜りますようお願い申しあげます。粗辞ではございますが、これをもちましてお礼のご挨拶とさせていた

多分辞世の句のつもりだったのでしょうか。「お別れに際し」と書かれたノートには「お浄土へ」と前書きし、めでたくも真のいのちへ還りゆく

うから御縁万物の縁

母は水の流れを愛していて、高屋川の源流を尋ねて藏持山に登ったこともありました。水の循環に大いなるいのちはたらきを重ねていたのだと思います。この世に迷いの生存を享けてやがてまた真実の世界に帰つてゆく真如なる世界を重ねて受けとめていたのでしょう。

ちょうど、山に降った雨が真清水となって泉に湧き出で川になり海にそそぐ。さらに海水が水蒸気となつて雲となり、また山に降りそそぐというように。そのようにお浄土に帰るのだと自分の人生を了解し、納得して尽くすことが出来た生涯であったかと考えています。

辞世の句に添えて次の2首があります。  
去りゆきし尚も現と固執せる  
万物支援の不可視悲しく

した。

過去去つた過去を未だ思い煩い固執している。全てに支えられてある今日を受けとることの出来ない身の悲しさ。

老病ののちの巡りを死と言わず

如に迎えらるいのち新し

悦美

生きているかぎりは老い、病を得、やがて死すべきものであるが、それら迷いの生存を越えて、真如に帰る身であることを確かに教えられた。日々新たなるのち尊し。

母の心情をよく伝えていると思いま

お参りの日々

北海道はあつという間に秋が過ぎ、少しずつ肌寒い季節となつてまいりました。福岡はどうでしょうか。

時間の流れは本当に早く、10月の葬儀からひと月、生前の祖母に会いに帰郷したのが8月上旬の事でしたから、別れの挨拶をしてから早三ヶ月となりました。

ここ数日、何度も学生時代の事を夢で見る機会がありまして、そうすると毎回のように祖母に朝を起こされるところから始まります。私は夢のなかでも一度寝をするのですが、その夢の終わりはいつも電子音で起こされてしまうのです。

現実に、もう祖母の「とおるちゃん、起きな」いう優しい声を聞くことはないのだからと思うのです。

私は社会人としてはまだ三年目、お寺やご門徒の方々に支えられてやつとというところです。祖母はそんな私の二十六年の人生の中でも、大変多くの割合を支えてくれました。返せるものなど殆どありませんが、お寺に戻つて生きしていくことが、祖母への願向けぐらいにはなるかなと思っています。

北海道に来て、来年五月で三年目となります。その後は念信寺に戻る予定ですので、どうぞよろしくお願いします。

お参りの日々

念信寺候補衆徒 村上宣



